

2004黒獅子祭り

市制施行50周年記念事業



2004 年長井の黒獅子祭りが 5 月 29 日 30 日の両日に渡って開催された。今年は長井市市制施行 50 周年の節目の年、いつもであれば一日でおわっていた黒獅子祭りの日程を 2 日間と設定して行われた。

今年は、黒獅子飯豊町・川西町の獅子にも協力してもらい二日間長井市は笛や太鼓の音色とかがり火、ほのかな明かりの御神燈に酔いしれた。



祭りを盛り上げるのは、やっぱり売店だ。商工会議所の美しい美女軍団? 味のほうもなかなかです。300 円のおでんを 2 個買いました。

初日は 6 時に獅子舞開始、黒獅子には雨が付き物、しかし 29 日はばらばら程度。30 日獅子舞が始まるころから、本降りとなりびしょ濡れの中、太鼓と笛の音色は雨に負けじと鳴り響く。





暗闇の中、獅子の顔が輝いて見える。なんともいえない、思わず頭を下げて拝んでしまう。五穀豊穡・家内安全を祈る。獅子は地域の守り神、遠い神代の昔から地域の人々に畏敬の念に・・・



警護と獅子の格闘、最後の見せ場となる。長井の獅子舞には警護が必ずつきます。ある神社の獅子舞では、獅子が舞っている最中に時々機嫌が悪くなったりすると（突然走って逃げ出したりもします）暴走してしまい手がつけられなくなったりします。そのような時は力自慢の警護が獅子をなだめすかしたり、時には獅子と格闘しねじ伏せたりします。そして警護に付き添われて獅子は氏子の悪魔を祓い、家の周辺にも悪魔が居ないか確かめながら一軒一軒回って行きます。

警護はその昔、村中の若者を集め、神前に於いて相撲の大会を行い、その大会で優勝した者が警護に任命されました。今でもその伝統を守り、神前相撲大会を行い優勝者を警護に任命している神社もありますが、年々参加者が少なくなってきたため、現在多くの神社では相撲大会は行われなくなりました。





《獅子宿ホームページより紹介》

<http://www2.jan.ne.jp/~anbin/content4.html>

獅子連中について

幕の中に入り、獅子を舞う人達のことを獅子連中と言います。現在はあまり知られなくなってしまいましたが、獅子連中には厳しい掟があります、その内容を紹介してみると。

獅子連中は氏子の中から竜神様を信じる者のみが集まり、神に仕える者として選ばれ獅子連中に加わることが許される大変名誉なことである。

従って獅子連中は祭りの稽古が始まると精進潔斎（しょうじんけっさい・雑念を去り身を清め行いを積み、肉類を食べず菜食すること）及び斎戒沐浴（さいかいもくよく・神事にかかわるので、祭りの期間中は冷水を浴びて身のけがれを取ると共に、飲食や行動を慎み心身を清めること）をして獅子舞を行い、祭りが終わるまで固くこの行いを守ること。

更に、人類の平和を願い福祉に貢献し平和世界建設のため獅子連中の名に於いて精進する。

このように様々な決まりごとがあります。



むかで獅子について

長井の黒獅子は、長い大幕に入り 20 人ほどで舞う多人数立ちの獅子舞で、「むかで獅子」（百足獅子）とも呼ばれ、この形で舞うのは山形県西置賜地方と、その周辺の一部に多く見られます。

獅子頭（蛇頭）について

獅子頭の形は、鼻が出っぱり目玉は飛び出しやぶにらみで額に宝珠を戴き、上顎の牙が外にはみ出し、顔を覆い隠す長いたてがみと鼻ひげが特長で、とてもいかめしい形をしています。子供達は獅子が近づいてくると泣き出すほどで、子供の頃はいたずらをすると「お獅子様来るぞ！」と驚かされたものです。

幕について

獅子幕は 20 人ほどがゆったり入れるかなり大きく長いもので、紺の地色に白で水流の流れを表すうねりのある波模様の上に、水流の激しさを表現する丸い水玉と、尾を引いた獅子玉が染め抜かれています。



「卯の花姫伝説」と龍神さま

古来から人々は出羽三山など山岳信仰に代表されるように、深い山中には神が住むと信じ、川の上流には龍神が住むと信じられてきました。したがって長井市の中心を流れる野川上流の三淵には、川を支配する龍神がいるとされ、三淵神社を奉りました。そして里宮の大祭には、三淵から龍神を迎えることになります。

三淵には「卯の花姫伝説」があり、昔この地に攻めてきた八幡太郎義家に恋をした姫が、味方の情報を漏らしてしまいそれが原因となって戦に破れてしまいます。そのことを悔やんだ姫は、「さらばこれまで」と三淵の絶壁に家来とも共身を投じ、大蛇となり神に奉られたとされ、大蛇の野川を流れ下る姿が獅子舞の姿だとされています。